

## 第2章 特定有人国境離島地域の現況

本章では、特定有人国境離島が現在置かれている地理的・社会的状況、沿革、地勢などの現況を示す。

## 1 地理的状况

- 伊豆諸島及び小笠原諸島海域により確保されている領海は約3.6万Km<sup>2</sup>、排他的経済水域は約171万Km<sup>2</sup>である。  
特定有人国境離島地域（三宅村、御蔵島村、八丈町及び青ヶ島村）を含む東京都の島しょによって、領海は日本全体の約11.6%、排他的経済水域は日本全体の約38%という広大な海域が確保されている。
- この海域は、我が国屈指の好漁場がもたらす水産資源はもとより、メタンハイドレートやレアアース及び地熱発電など、新たな資源やエネルギーの開発・利用という、大きな可能性も有しており、我が国の国益を維持する上で非常に重要な地域である。

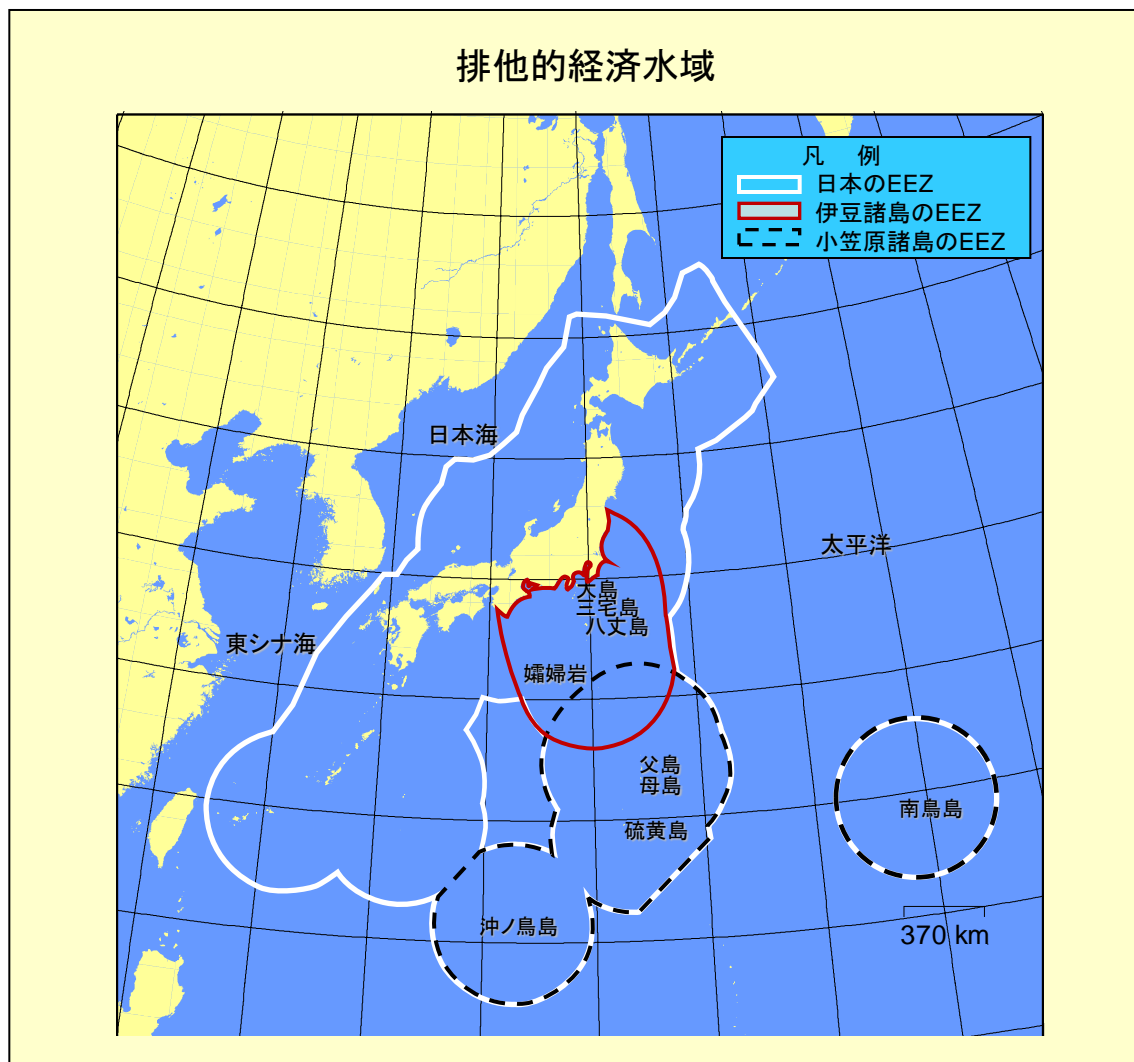
## 2 社会的状况

- 近年では、近隣諸国の海洋権益をめぐる主張や活動が活発化している。我が国周辺海域においては、我が国の領海及び排他的経済水域内での外国漁船による違法操業や、外国公船の領海侵入等の事案も繰り返されるなど、看過できない近隣諸国の海洋進出が活発化している。
- 伊豆諸島・小笠原周辺海域においても平成26年9月から12月にかけて中国漁船による違法操業が行われ、島の基幹産業である漁業に影響を及ぼすなど、島民に大きな不安を与えた。
- このような社会的状况から、我が国の領海、排他的経済水域等を適切に管理する必要性が増大している。管理に当たっては、特定有人国境離島地域の重要性に鑑み、その保全に向けた取組を推進する必要がある。



違法操業を行う中国漁船

### 3 領海と排他的経済水域



- **領海**  
基線（海岸の低潮線、湾口もしくは湾内線等に引かれる直線）からその外側12海里（約22 km）の線までの海域のこと。領海には、沿岸国の主権が及ぶ。
- **排他的経済水域**  
経済的な主権が及ぶ水域「exclusive economic zone (EEZ)」のこと。領海の基線から、その外側200海里（約370 km）の線までの海域（領海を除く。）並びにその海底及び海底下。排他的経済水域においては、沿岸国に以下の権利、管轄権等が認められている。
  - ・天然資源の探査、開発、保存及び管理等のための主権的権利
  - ・人工島、施設及び構築物の設置及び利用に関する管轄権
  - ・海洋の科学的調査に関する管轄権
  - ・海洋環境の保護及び保全に関する管轄権

## 4 沿革

- 特定有人国境離島地域を含む伊豆諸島地域は、古くから伊豆七島と称されており、縄文・弥生式土器や遺跡の発掘等から、先史時代から人が住み着いていたことが立証されている。
- 江戸時代は徳川幕府の直轄地として、本土と異なった制度の下にあった。
- 明治時代に入り、韮山県、足柄県、静岡県とその所属が変遷した後、明治11(1878)年に東京府へ編入された。
- 明治41(1908)年に大島と八丈島で島嶼町村制<sup>(注)</sup>が施行されて以降、各島において村の設置が進み、昭和28(1953)年の離島振興法成立時には、23村が設置されていた。その後、昭和の大合併により合併が進み、昭和31(1956)年に三宅島の旧3村が合併したことをもって2町6村になり、現在に至っている。
- 伊豆諸島全体が富士火山帯に属しているため、古くから火山活動による被害を被ってきた。とりわけ、大島の三原山、三宅島の雄山では頻繁に噴火活動が起こってきた。また、青ヶ島では1780年代の噴火により50年間無人島になった還住の歴史がある。
- 近年では、昭和58(1983)年における三宅島阿古地区の住宅の焼失・埋没、昭和61(1986)年における大島の約1か月間の全島避難などの被害が発生している。
- さらに、平成12(2000)年には、三宅島の噴火、新島・神津島近海地震が発生し、多大な被害をもたらした。とりわけ、三宅島にあっては、4年以上にも及ぶ全島避難を余儀なくされ、平成17(2005)年に帰島を果たしたところである。

(注)島嶼町村制：明治政府の勅令により定められた、本土とは別に島しょ部のみに適用された地方制度



1780年代の噴火により形成された青ヶ島・丸山



平成17年の三宅島帰島風景

## 5 地勢

- 伊豆諸島地域は、東京から約100kmから約350kmの南方海上に位置し、9島の有人離島（大島、利島、新島、式根島、神津島、三宅島、御蔵島、八丈島及び青ヶ島）及びその他の無人島が点在している。
- 9島の面積合計は約300km<sup>2</sup>で、区部の面積の約半分である。特定有人国境離島4島の面積合計は約154km<sup>2</sup>であり、9島の面積合計の約半分である。
- 全体が富士火山帯に属する火山島であり、火山の頂が海上に突出しているなど、地形が急しゅんであるため平坦地は少ない。また、海岸は海蝕により切り立った断崖となっているなど、湾入部が少ないという特徴がある。

## 6 気象

- 年平均気温は16度から19度までと温暖であり、気温差は小さく降霜・降雪は少ない。
- 四国や九州と同緯度に位置するが、暖流である黒潮が接近して流れているため、比較的暖かな気候である。
- 年降水量は約3,000mmであり、温暖多雨の海洋性気候である。
- 春、秋には北東風が、11月から3月までの間は西風、南西風が強く吹くことが多い。また、台風来襲地帯であるため、波浪、風雨による被害を受けることが多い。

観測地点別平均気温（平成28年）

（単位：℃）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均
東京	6.1	7.2	10.1	15.4	20.2	22.4	25.4	27.1	24.4	18.7	11.4	8.9	16.4
三宅島	10.4	11.0	13.5	18.0	20.4	22.3	25.4	27.6	26.1	22.3	17.4	13.9	19.0
八丈島	11.2	11.7	13.9	17.4	20.2	22.1	25.6	27.2	26.4	22.8	18.1	14.3	19.2

観測地点別降水量（平成28年）

（単位：mm）

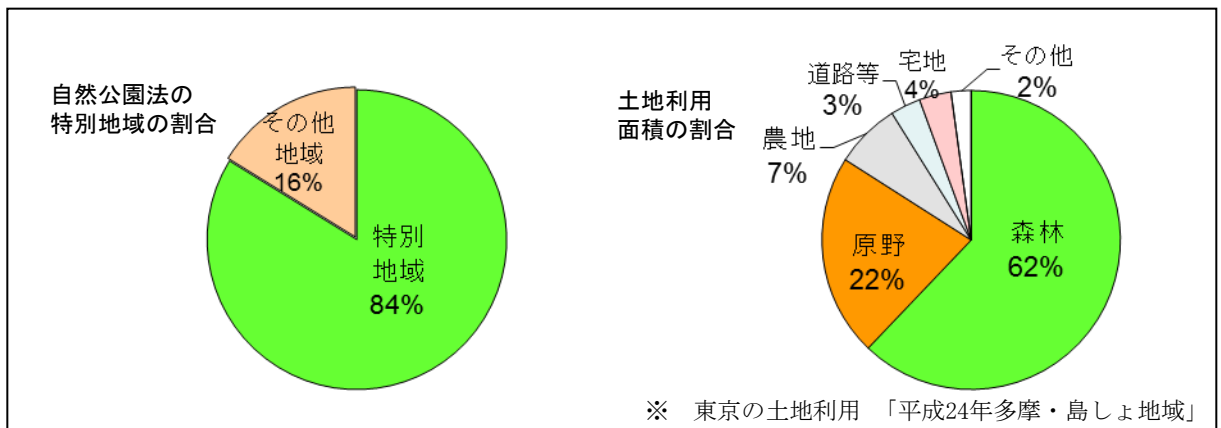
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	総量
東京	85	57	103	120	137.5	174.5	81.5	414	287	96.5	139	84	1,779
三宅島	158	123	298	153	149.5	304	128	541	340	277	298	151.5	2,921
八丈島	112	88	384.5	157.5	130.5	309.5	253	305.5	330.5	491	297.5	118.5	2,978

※ 気象庁「気象統計情報」より

## 7 土地利用

- 特定有人国境離島地域は、青ヶ島を除き富士箱根伊豆国立公園のエリアに指定されており、各島の大部分が自然公園法上の特別地域<sup>(注)</sup>となっている。
- 森林・原野の占める割合が高く（約84%）、宅地や農地の割合は低い。

(注)特別地域：自然公園法に基づき、国立・国定公園内の「風致を維持」するために指定された保護地域



## 8 人口

- 特定有人国境離島地域における平成27年国勢調査の人口は、10,608人となっており、減少傾向が続いている。
- 高齢化の進行と生産年齢人口率の減少も続き、同調査の高齢化率は35.9%、生産年齢人口率は52.8%となっている。

